

<p>たくましく 心豊かな 地球市民</p> 	<p>瞳かがやく 附属松本中の子ら</p> <h1>すずかけの森</h1>	<p>令和8年2月12日(木) 信州大学教育学部 附属松本中学校 学校だより 第9号</p> 
--	---------------------------------------	--

暦の上では立春を過ぎましたが、朝夕の寒さはまだ続いています。そのような中でも、校内には生徒たちの明るい声が響き、一年間のまとめに向けて前向きに学校生活を送る姿が見られます。

最近、職員の一人がけがをするという出来事がありました。その際、生徒がさりげなく荷物を運んだり、歩調を合わせたりする姿が多く見られました。相手の状況を感じ取り、自然に行動するその姿に、自分のことだけでなく、相手のことを自分のことのように考えて行動する「愛他」の心が、確かに育っていることを感じました。

今回の校長講話では、学校目標「たくましく 心豊かな 地球市民」のうち、「地球市民」として大切にしたい姿について、友達との関わりを通して考えました。人はそれぞれ価値観や考え方が異なりますが、その違いを理解しようと努め、友達のことを自分のこととして考え、行動できる関係こそが、信頼を生み、人が集まる土台になるというお話でした。こうした姿は、いじめを許さない学校、そして社会へとつながっていくものです。

残りの学校生活の中で、生徒一人一人が周囲との関わりを大切にしながら、自身の成長を実感できることを期待しています。

「地球市民」として、友達とどう向き合うか ～2月校長講話～

今回も、学校目標「たくましく 心豊かな 地球市民」の、「地球市民」について話を進めます。

前回の講話で、「住む場所・住む環境が違えば、価値観が違うのは当たり前。地球市民として、大切なのは互いの違いを理解し合うことが重要である」という話をしました。

今日は友達について考えます。

アニメで考えてみることにします。皆さんがアニメで思い出す友達といえば、誰と誰でしょうか。私はず、思い浮かべたのは、『スラムダンク』の桜木花道と流川楓です。この二人は、同じバスケットボールチームで同じ学年でありながら、最初はとても仲が悪く見えました。才能にあふれ、努力も怠らず、試合では大活躍。おまけにモテモテの流川。一方で、喧嘩は強いものの、バスケは素人で、試合ではミスが多い桜木。しかし、数々の試合でぶつかり合う中で、二人は少しずつ互いを認め合っていきます。漫画の最後の試合である山王戦では、残り2秒、1点負けている場面で、流川が桜木にパスを出し、桜木がシュートを決めるという感動的なシーンが描かれています。互いの違いを理解しながら、相手を認めていく二人の関係に、強く心を打たれたことを思い出します。

逆の関係として思い浮かぶのは、のび太とジャイアンでしょうか。ジャイアンは、いつものび太を馬鹿にし、上下関係のある関係性として描かれています。そして、有名なジャイアンの言葉「俺の物は俺の物、お前の物も俺の物」というものがあります。ひどいですよね。のび太がドラえもんに出してもらった道具を、ジャイアンが勝手に取り上げてしまう場面は、皆さんもよく覚えていると思います。欲しいからと言って、人の物をとる人が友達になれるわけがありません。

そんなことを考える中で、「のび太のハチャメチャ入学式」というエピソードがあることを知りました。これは、原作者の藤子・F・不二雄さんによるものではないオリジナルストーリーで、さまざまな受け止め方がある作品だそうです。

のび太はジャイアンに
「なんで、ここまでしてくれるの？」

ジャイアンはのび太に
「俺の物は俺の物 お前の物は俺の物だからな」

友達のことを自分のことのように
心配してくれる

このエピソードでは、普段は自己中心に見えるジャイアンが、「俺の物は俺の物。お前の物も俺の物」という有名なセリフを、友達のことを思い、行動する姿が描かれています。物語を通して、友達のことを自分のことのように考え、行動することが、信頼関係を築くことにつながるというメッセージが伝えられています。ただ、こんなジャイアンじゃないと物議を醸したこともあったようです。でも、こんな友達が欲しいと思いませんか。友達のことでも、自分のことのように心配して、行動してくれる友達です。

実は、この学校にもそんな素敵な人がいるという話を聞きました。2年生は今、修学旅行に向けての準備として班決めを行っています。その際、友達を支えるために、友達のことを自分のこととして行動した人がいたとのこと。すごいですね。そんな人がこの学校にいることがうれしいです。

これは、前回の校長講話、地球市民としてお互いを理解しようと努め、納得解を探している姿であり、いじめを許さない学校につながっていくものだと思います。

3年生のみなさんは、もうすぐ卒業を迎えます。先生のこれまでの人生の教訓として聞いてください。

「〇〇してほしい」「〇〇してくれない」と他人に期待してばかりいる人は、自分の周りからどんどん人が離れていきます。逆に、友達のことを考え、自分から行動できる人の周りには、自然と人が集まってきます。これが、究極的には、いじめを許さない社会にもつながっていくのです。

友達のことを思い、自ら動くその一步一步が、皆さん自身の人生を豊かにしていくものと信じています。

いじめを許さない社会

「〇〇してほしい」、「〇〇してくれない」と他人に期待してばかりの人は、
人が離れていく

友達のことを自分のことのように考え、自分から行動できる人に、
人が集まってくる